

APEC 質の高いインフラ開発・投資の質に関するインフラピアレビュー  
及び能力構築事業(インドネシア)・遠隔研修に関する報告書

遠隔研修 講師報告書	
指導日	2022年1月24日(月)、25日(火)、28日(金)
コース名	APEC 質の高いインフラ開発・投資の質に関するインフラピアレビュー 及び能力構築事業(インドネシア)・遠隔研修 (コース略称 FRIAD1)
指導時間	11:00-14:00(日本時間)
指導(意見交換) 内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>① APEC の質高インフラガイドブックに基づくインフラの質の重要性の説明</li> <li>② PPP(Public-Private Partnerships)の基礎の解説</li> <li>③ Peer Review 報告書結果の共有</li> <li>④ インドネシアの道路セクターの現状および特にファイナンス面での課題</li> <li>⑤ PPP(Public-Private Partnerships)とSGDsについて</li> <li>⑥ インドネシアにおけるPPPの課題と解決策について(グループワーク)</li> </ul>
具体的成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 上記指導項目①に関する知識や関心の向上</li> <li>② 上記指導項目②に関する知識や関心の向上</li> <li>③ Peer Review の結果(特に課題点)を共有することにより、客観的な立場から見たインドネシアのPPPの課題や問題点について考える機会を与えることができた。</li> <li>④ 上記指導項目④に関する知識や関心の向上</li> <li>⑤ 上記指導項目⑤に関する知識や関心の向上</li> <li>⑥ 上記を通じて省庁担当ごとにグループを設けて議論してもらった結果、お互いの問題意識を共有するとともに、あるべき姿や解決策について検討する機会を設けることができたと思う。</li> </ul>
問題点及び課題	インドネシアにおいては既にPPPは一定程度普及しており、他のASEAN諸国に比べても関連する制度の整備状況や政府職員の知識や能力は高いといえる。他方、①PPPの入札を実施しても応札者が限られている、②建設されたPPP施設の品質が必ずしも高くない、③工事費の増額による契約変更が多発している、④海外投資家の参加率が低く、かつファイナンス手法も限定されている、といった実務的な課題がある。
提言(解決策)	上記は、知識の問題というよりも、いわゆるImplementationの問題である。今後の能力開発プログラムでは、知識や情報を提供するだけでなく、以下に関係者を巻き込んで解決を図っているかというImplementationも面も手当てしていく必要があると思われる。
その他所感等 (任意)	全体的にインドネシア政府職員の本プログラムへの関心は高く、参加は積極的であったと考えられる。発言や質問も予想以上に多く聞かれた。研修の内容やテーマも、十分な事前のすり合わせ、準備を行った結果、先方のニーズや問題意識にあったものであったと考える。今回はオンライン講義ではあったが、グループワークを設けたり、或いはトピックによって複数の講師(専門家)を分けたりという工夫が功を奏して、期待された成果が得られたと考える。今後は、参加者からの意見にもあったように、より現実的な問題についてその解決策について議論すること、または、対象セクターを広げた議論をしていくことなどを検討していく価値があると思う。

遠隔研修 講師報告書	
指導日	2022年1月26日(水)-28日(金)
コース名	APEC 質の高いインフラ開発・投資の質に関するインフラピアレビュー 及び能力構築事業(インドネシア)・遠隔研修 (コース略称 FRIAD1)
指導時間	11:00-14:00(日本時間)
指導(意見交換) 内容	<p>(1) 上下水道事業における PPP およびインドネシアへの適用可能性 世界の上下水道において典型的に適用される PPP の形態や適用範囲について講義を行うとともに、それぞれのスキームの課題、1990年代と現代における PPP の導入範囲や事例の変遷等について講義を行った。</p> <p>講義の最後に、インドネシアへの導入を念頭において、特に地方水道における水道普及率を念頭において水道事業体の広域化の事例を、また、地方水道公社の自律的かつ持続的な経営を念頭において、近年各国で導入が進められている Blended Finance の事例を紹介した。</p> <p>(2) 廃棄物発電の基礎(技術・事業スキーム) 廃棄物発電の位置づけについて都市廃棄物管理全体からの考察、廃棄物発電についての SDG の位置づけ、APEC における質高インフラの構成要素、技術方式(焼却技術、バイオガス、埋め立てガス回収等)等の廃棄物発電の基礎について講義を行った。また、講義の後半では廃棄物発電の導入に向けた財務支援や制度改正等の政府支援策について講義を行った。</p>
具体的成果	<p>上下水道については、特に世界における PPP の潮流や効果・批判等について、認識が深まったものと考えられる。また、インドネシアでは特に今後地方水道における水道普及率の向上と地方水道公社の持続的な経営が課題となっていく中、他国における広域化や Blended Finance の事例は、今後のインドネシアの水道事業の発展にも大いに参考になるものと考えられる。</p> <p>廃棄物発電については、参加者の所属が環境省や公共事業・住宅省等と技術を取り扱う省庁の他、財務省や BAPPENAS 等の計画や予算をつかさどる省庁とバラツキがあったものの、本講義により共通の基礎的な知見や導入に際しての課題を共有することができた。</p>
問題点及び課題	<p>特に廃棄物発電については、インドネシアにおいても大統領令において特定都市で導入の促進が明記されているところ、実態として進捗は非常に緩いものとなっている。その背景には、用地取得の問題の他、固定価格買い取り制度、あるいは低廉な Tipping Fee 等に課題があるとされている。講義の後半および最終日のラップアップセッションにおいても、特に VGF 等の政府支援策が有効との意見が提起された一方で、限られた財政の中での財政出動のあり方について、議論を行った。</p>
提言(解決策)	<p>廃棄物発電事業はあくまでも都市廃棄物管理事業のうち、リサイクルに属する形態であること、また、廃棄物発電と言えども焼却方式のみならず、条件によってはバイオガス発電や固形燃料化等の他方式の導入が可能であること等について、指導を行った。さらに、特に廃棄物発電事業は気候変動という観点からも有効な緩和策の一つであり、各国政府や国際金融機関による支援も多数行われていることについて紹介した。</p>
その他所感等 (任意)	<p>本講義では、他国事例の紹介や課題認識、事業スキームや技術情報の提供については、英語で行った。一方で、細部の理解が必要となる水道事業や廃棄物発電事業に関連する財務シミュレーションの実務等については、インドネシア人によりインドネシア語で行ったことから、効果の高い指導を行うことができたものと考えている。</p>